

第36回 **BACH** スクリーンコンサート

2024. 7月

今月のテーマ 今チケットが取れない **3人の日本人ピアニスト****角野 隼斗 (すみの はやと)** ショーシガーシュウィン：ラブソディ・イン・ブルー

1995年〈平成7年〉7月14日生まれ。開成中学に合格。開成高等学校から東京大学理科一類に現役合格。大学院を卒業後、恩師金子勝子の強い勧めもあって、2018年8月のピティナ・ピアノコンペティション（PTNA/ピティナ）挑戦。卒業後の就職を考え、インターンシップをしながらタイトなスケジュールで猛練習をこなし、特級グランプリを受賞。

音響工学研究者より音楽家になる決意を固め、コンサートピアニストとして活動を始める。自身のYouTubeチャンネルでは「Cateen かていん」名義で活動し、チャンネル登録者数は129万人、総再生回数は1億7400万回を超えている。ピアニスト角野未来は妹。2021 ショパンコンクールではセミファイナルに進出。

**反田 恭平 (そりた きょうへい)** ショパン：ピアノ協奏曲第1番

1994年〈平成8年〉9月1日 生まれ。桐朋女子高等学校音楽科（共学）へ進学。高校3年生の時、日本音楽コンクールにて18歳で第1位。高校卒業後の2013年にロシアへと留学、2015年にイタリアで開催された第25回チッタ・ディ・カントゥ国際ピアノ協奏曲コンクールに参加し第1位。

2021年10月、第18回ショパン国際ピアノコンクールで第2位に入賞。

内田光子以来の日本人歴代最高位2位タイ。51年ぶり2人目、

日本で初のオーケストラの株式会社化を実現しジャパン・ナショナル・オーケストラ代表取締役社長兼 CEO。

**辻井 伸行 (つじい のぶゆき)** ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番

1988年〈昭和63年〉9月13日生まれ。筑波大学附属盲学校小学部を経て、東京音楽大学付属高等学校（ピアノ演奏家コース）、上野学園大学（演奏家コース/ピアノ専門）卒業。

恩師の東京音楽大学准教授川上昌裕は伸行のために、カセットテープに楽譜の情報を録音する手段を思い付き、この「耳で読む楽譜」を200本以上も作成した。

2009年、ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで、チャン・ハオチェンと共に優勝、日本人として同コンクール初優勝者。カーネギーホールでデビューを飾り、イギリス、ロシア、チェコなど世界各地で活動を行っている。



ジョージガーシュウィン : ラプソディ・イン・ブルー

「新しい音楽の試み」と題されたコンサートに向けて作曲した。ガーシュウィンの死後の1942年にフランク・キャンベル＝ワトソンがグローフェ編曲版に加筆修正を加えた版が演奏されています。ピアノ独奏が入るため、一種のピアノ協奏曲風な雰囲気がある。

最初はクラリネットの、低音からのグリッサンドで始まる。カデンツァの部分が取り入れられ、ヨーロッパのクラシック音楽とアメリカのジャズを融合させたシンフォニックジャズとして高く評価されています。(グリッサンド奏法とは、一音一音の音高を区切ることなく、隙間なく滑らせるように流れるように音高を上げ下げする演奏技法をいう)

ショパン : ピアノ協奏曲第1番 Op. 11

ショパンのピアノ協奏曲第1番は胸を打つ切ないメロディーで親しまれる名曲です。ショパンがこの曲を書いたのは20歳の時。当時ショパンはある女性に恋をしていて、その影響が作品に反映されているとも言われています。

第1楽章

オーケストラによってマズルカ風の第1主題とポロネーズ風の副主題、第2主題が奏された後、独奏ピアノが登場し、終始華やかに曲が展開される。

第2楽章

瞑想的な弱音器を付けた弦の序奏に続いてピアノによる美しい主題が現れる。途中の盛り上がりを見せた後、ピアノのアルペジオを背景に、オーケストラが最初の主題を奏でて曲を閉じる。

第3楽章

オーケストラとピアノが掛け合い、途中に民謡調のエピソードを登場させつつ、堂々たるクライマックスを築く。

ラフマニノフ : ピアノ協奏曲第2番 Op. 18

第1楽章

主題呈示部に先駆けて、ピアノ独奏がロシア正教の鐘を模した、ゆっくりとした和音連打を続けながら打ち鳴らす。第1主題がオーケストラに現れるのに対し、より抒情的な第2主題は、まずピアノに登場してきます。

第2楽章

重厚な第1楽章とは対照的に、甘く切ないメランコリックな世界が広がる。フルートとクラリネットがピアノソロと穏やかに調和し、聴く者を幻想の泉の奥底へと静かに引き込んでいく。

第3楽章

壮大なロシア的叙情の世界が繰り広げられる。そしてフィナーレに向けてダイナミックで力強い終結部、いわゆる「ラフマニノフ終止」が展開され、華々しくピリオドが打たれる。